

消防学校だより

平成31年4月号

発行年月日 平成31年4月26日
発行 宮崎県消防学校

★第64期初任科生入校

平成31年4月5日(金)、消防学校本館2階の講堂にて、県内10消防(局)本部の消防長のほか消防関係者や家族の列席のもと、第64期初任科入校式を挙行了しました。

今年度は、9本部35名の初任科生が10月11日(金)までの約6ヶ月間、消防関係法令や消火、救急、救助の基本活動を学んでいきます。



学校長式辞 校長 郡司 宗則



入校生代表宣誓 瀬ノ口 太郎(日南市)



初任科生 35名



各所属長と初任科生 35名

★訓練礼式

団体生活を要する消防は、規律は実にその生命であって、常にこれが確守と伸張に努めなければならない。日常の服装はもちろん、特に災害現場においての規律の保持は最も肝要で、常に上下秩序を保ち指揮命令に遵守し、上下一体となって統一ある行動が行わなければならない事を、訓練礼式をとおし学びました。



★消防設備取扱訓練

4月10日（水）屋内消火栓の取扱を学びました。

屋内消火栓の諸元を学び、実際に屋内消火栓から放水をしました。まだまだ、放水姿勢がなってませんが、今後訓練を積み重ね、消防士らしい放水姿勢が出来るように鍛えていきます。



★宮崎県消防職員意見発表会見学

4月11日（木）西臼杵広域行政事務組合消防本部管内の高千穂町で開催された、平成31年度宮崎県消防職員意見発表会の見学に行きました。

諸先輩の発表する姿、発表内容に、初任科生は刺激を受けました。



（来賓挨拶）藪田 危機管理統括官

郡司 宗則 消防学校長

★体力測定

消防学校に入校し初めての体力測定（5,000m走、反復横跳び、立ち幅跳び・腹筋、懸垂、握力測定）を実施しました。

現在の体力から、卒業時にどう伸びているかが非常に楽しみです。



★トレーニング

消防職員が赴く災害現場に楽な場所はありません。出動する現場はつらく過酷な場所です。これから数十年、消防職員を辞するまで、自分の体が現場で通用するように維持することを心掛けます。



山田 義徳 講師 今年 60 才にしてこの体



★健康と体力

体の健康は、心が健康であるからこそ保てます。人命救助に生きる消防職員は、心にストレスを抱える事案にも遭遇しますが、ストレスは溜めないことが一番です。

タフな心をつくる技術を学びました。

タフ・ジャパン代表 蒲田 修広氏



★空気呼吸器取扱

(株)重松製作所 九州営業所より加来講師に来ていただき、空気呼吸器の諸元を説明していただきました。

火災対応や酸欠事故、特殊災害時の各種有毒物質対応を行う消防職員にとって、空気呼吸器は必要不可欠な資機材であり、正しい知識を持ち適切に取り扱えるように、初任科期間中にしっかりと教育していきます。



★事故防止

緊急車両を運行し、国民の生命、身体および財産を保護する消防機関にとって、消防車両により事故を起こすことは、信用失墜にあたります。宮崎南警察署交通課 假屋氏、ホンダカーズ様を講師に招き、事故を起こさないように、また、事故に遭わないように安全教育を実施しました。



★消防団指揮幹部科（現場指揮課程前期）

4月13日（土）・14日（日）1次・4月18日（木）・19日（金）2次で消防団員指揮幹部科現場指揮課程を実施しました。

南海トラフ巨大地震等の大災害の発生を鑑み、消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図ることにより住民の安全の確保に資することを目的として、消防団幹部の指揮能力の向上を図るため教育を実施しています。

前期1次入校生 42名



前期2次入校生 60名（修了 59名）



実技訓練

搬送法



手動式削岩機



手動式油圧ジャッキ



スーパーカッター



エンジンカッター



現場指揮

消防学校の施設を仮想の災害対象物に見立て、各学生が指揮者となり無線交信、情報収集、現場確認を行った後に団員への指示し防御態勢をとる実働指揮訓練。

対象物の関係者役も設定し、実際に情報の収集、その情報に基づき行動をとりました。



来月号は、令和元年となります。
新時代もよろしくお願ひします。

宮崎県消防学校

担 当:伊豆元 優一(いずもと ゆういち)

電 話:0985-56-0555 FAX:0985-56-1475

E-mail:shobou-s@pref.miyazaki.lg.jp